

## 2020 年度事業報告

### 1) 第 12 回総会／学術集会

2020 年 8 月 22 日（土）、23 日（日）

形式：オンライン形式

会長：池上 敬一（三条ただ郷クリニック 院長）

参加者：163 名

### 2) 学会誌『医療職の能力開発』（JJHPD）

会員はオンラインジャーナル無料閲覧可能（会員番号、PW でログイン）。

### 3) 委員会報告

#### ・編集委員会

本年度は依頼原稿の収集がうまくいかず、また質を求め基準を高く設定しすぎていたの  
で 1 巻のみの発行となった。

#### ・教授システム開発委員会

本年度は、コロナ禍のために対面の患者安全 Team Sim 等の開催が見送られたため  
新規開発は計画通りにできなかった。

#### ・倫理委員会

日本医療教授システム学会における学術集会及び機関誌において、倫理問題に抵触す  
る発表等が無かったため、倫理委員会における審査 や審議は特に実施していない。

#### ・戦略委員会

本年度は、会員増の取り組み、ならびに患者安全 TeamSim の普及を図るための取り組み  
を掲げたが、支部活動は COVID-19 の影響で、計画通りにできなかった。

会員増を図るための取り組みでは、第 13 回 JSISH 総会学術集会の案内と併せて、セミ  
ナー工法を開催地沖縄を中心に行った。

上記について、メンバー全員を介しての委員会の開催ができなかった。

#### ・会則委員会

一般社団法人化後の定款と活動の整合を確認

#### ・学術交流推進委員会

①学術集会の全体企画の作成 ・第 12 回学会総会・学術総会（Web 開催）のプログラムを企画した。

### 3. 資格認定手続きの構築

②第 13 回学会総会・学術総会（ハイブリッド開催）のプログラムを企画した。

③ポスター演題および事例検討会の抄録の査読を実施した。

④医療 ID・実践事例研究会を計 6 回開催した（ハイブリッド開催）。

### 2. 資格認定手続きの構築

⑤医療 ID セミナーを計 1 回開催した【8 月東京（研修設計編、Web 開催）】。

⑥学習デザイン勉強会を計 6 回開催した（Web 開催）。

⑦医療 ISD 実践コース開催（10 月～、月 4 回、Web 開催）。

⑧支部の活動支援・活発化 ・高知（9 月）医療 ID・実践事例検討会を開催した。（ハイブリッド 開催）。

⑨学習者中心の教育を実現するインストラクショナルデザイン理論とモデルー刊行記念 Zoom トークライブを開催した（8 月、Web 開催）。

#### ・総務委員会

1. 第 12 回学術集会の調整・企画運営

2. ハイブリット・オンライン変更となったセミナーに関する調整・運営

□ 医療 ID・実践事例研究会（ハイブリッド：6 回）。

□ 医療 ID セミナー（8 月東京：研修設計編、Web 開催）。

□ 学習デザイン勉強会（Web 開催：6 回）。

□ 医療 ISD 実践コース（10 月～、月 4 回、Web 開催）。

□ 高知（9 月）医療 ID・実践事例検討会（ハイブリッド）。

□ 学習者中心の教育を実現するインストラクショナルデザイン理論とモデルー刊行記念 Zoom トークライブ（8 月）

#### ・資格認定委員会

1. 資格認定手続きの構築

2. ibstp との契約更新

感染拡大防止のため 2020 年度は代表理事、委員などとメール審議を複数回実施した。

#### 4) セミナー

##### 定例セミナー

医療 ID・実践事例研究会 聴講者 18 名(発表者別)

事例研究（デザイン研究）のオリエンテーションから論文投稿までのプロセスを支援します。  
ファシリテーター：熊本大学大学院社会文化科学研究科 教授・教授システム学専攻長 鈴木克明  
日本医療教授システム学会池上敬一、自治医科大学メディカルシミュレーションセンター鈴木義彦

- ・ 2月23日 田町 CIC 2名
- ・ 6月13日 WEB 8名
- ・ 9月20日 WEB 4名
- ・ 10月25日 WEB 2名
- ・ 12月20日 WEB 2名

### 学習デザイン（ゴールド・メソッドを学ぶ）勉強会 参加者48名

医療教授システム勉強会で事例研究の前提となる理論、モデルや事例研究の成果を勉強します。  
事例研究を行いながらこの勉強会で前提となる知識基盤を獲得することもできます。

ファシリテーター：熊本大学大学院社会文化科学研究科 教授・教授システム学専攻長 鈴木克明  
日本医療教授システム学会池上敬一、自治医科大学メディカルシミュレーションセンター鈴木義彦  
横浜創英大学 岡本華枝

- ・ 1月25日 田町 CIC 10名
- ・ 5月16日 WEB 12名
- ・ 7月11日 WEB 13名
- ・ 10月3日 WEB 8名
- ・ 11月7日 WEB 5名

### 医療IDセミナー 参加者2名

教育活動（大学、専門学校での授業、病院・職場における研究）に携わる全ての医療関係者（教員、医師、看護師、救急救命士、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など）の方を対象に、以下のような疑問解決の手助けをし、教育実践の向上を目指します。

学習者の実力が身につく「授業」や「研修」をするには？できるだけ短時間で無駄なく教育するには？

学習者にとって成長が実感できる教育をするには？自己流ではない、理論を活用した教育をするには？

ムードルを利用した1か月前の事前学習と、セミナー終了後、課題提出あり（3か月後）

セミナー統括：神戸大学医学部附属病院 平尾明美、

事前学習・e-learning 担当：自治医科大学 情報センター IR 部門 浅田義和、

LA 支援・養成コース担当、学術交流推進委員会委員長：自治医科大学メディカルシミュレーションセンター 鈴木義彦、

チーフファシリテーター：熊本大学大学院社会文化科学研究科 教授・教授システム学専攻長 鈴木克明、

運営管理担当、総務委員会委員長：横浜創英大学 岡本華枝

- ・ 9月6日 WEB 2名

### 医療ISD実践コース

参加者が自分のペースで学ぶことができる「医療ISD（インストラクショナル・システム・デザイン）実践コース」自分の現場で活用する実現可能なレベルまで落とし込む

月4回（毎週火曜日 PM9:00～ 1時間）

ファシリテーター：日本医療教授システム学会 池上敬一、横浜創英大学 岡本華枝

- ・ 10月 WEB 25名
- ・ 11月 WEB 27名
- ・ 12月 WEB 27名

### **救急活動と臨床推論 参加者 11名**

救急活動で使用する臨床推論ポケットカードを使いながら、シナリオを使ったメンタル・シミュレーションで臨床推論を生き生きと学びます。

傷病者ストーリーを組み立てながら、救急活動の背景で機能する臨床推論の過程を意識し、頭の中のメンタル・シミュレーション能力「周囲の出来事や情報を知覚する機能」と「知覚情報を処理し判断と行動を選択する機能」をトレーニングします。

受講対象者：救急救命士、救急隊員、消防職員、医師、看護師

- ・ 1月12日 岡山 7名
- ・ 10月24日 越谷 CATS 4名

## 定例コース

### **KIDUKI プロバイダー 参加者 40名**

患者急変時の第一発見者になる可能性が高い看護師の「急変への気づき」「評価に基づく報告」「応援が到着するまでの救急処置」能力を向上させることを目的とします。

受講対象者：看護師、本コースの目的を理解し受講を希望する研修医・レジデントなど医師とコメディカル。臨床経験、または患者さんと接していること。

- ・ 2月1日 広島 9名
- ・ 2月20日 日赤九州看護大学 6名
- ・ 12月6日 獨協医科大学さいたま医療センター 25名

### **救急活動シミュレーション学習 参加者 32名**

救急隊員を対象としたコース。活動基準のプロトコールに準拠した質の高い救急活動を行うための考え方のシミュレーションコース

- ・ 2月5日 函館消防本部 8名
- ・ 8月2日 越谷 CATS 5名
- ・ 10月24日 越谷 CATS 6名

### **患者安全 TeamSim ベーシック 参加者 32名**

急変させない患者観察テクニックの基礎を学びます。

受講対象者：医師、看護師、薬剤師、放射線技師など病院やクリニックなどに勤務する医療者。消防組織の救急隊員（救急救命士を含む）などのように病院前救急医療に従事するもの。医療機関や医療者を養成する教育機関に常勤する教員、臨床指導者、研修指導者。

- ・ 2月8日 越谷 CATS 6名
- ・ 2月29日 神戸医科大学附属病院 6名
- ・ 7月12日 越谷 CATS 4名
- ・ 11月22日 京都光華女子大学 16名

### **患者安全 TeamSim 1&2 参加者 8名**

病院・部署における患者安全を担保するために必要な看護実践能力を獲得します。

受講対象：看護師、本コースの目的を理解し受講を希望するメディカルスタッフ、看護教員。

- ・ 2月22日 大垣市民病院(岐阜) 8名

**名**

ファシリテーター：池上敬一（日本医療教授システム学会 代表）

**ゴールドメソッドを使った授業改善セミナー 参加者 14 名**

このセミナーでは、インストラクショナル・デザイン（Instructional Design：ID）を基盤に開発されたゴールド・メソッド（Goal-Oriented Learning Design：GOLD method）を用いて授業をしてみたいという方に、具体的にゴールド・メソッドを活用できる方略を提供します。

ファシリテーター：池上敬一（日本医療教授システム学会 代表）、岡本華枝（横浜創英大学）

**臨床判断カードを使ったフィジカルアセスメントの教え方 参加者 13 名**

ファシリテーター：池上敬一（日本医療教授システム学会 代表）、岡本華枝（横浜創英大学）、瀬川久江（呉医療センター）

**無料講演会**

**学習者中心の教育を実現するインストラクショナルデザイン 理論とモデル刊行記念 WEB トークライブ**

参加者： 会員 95 名、非会員 277 名 合計 372 名

2020 年 8 月 8 日（土）13：00～17：00

プログラム

第 1 部 オープニング（総合司会：岡本華枝）

鈴木克明（熊本大学教授システム学研究センター長・監訳者） ライケルースの業績と本書発刊の意義

第 2 部 稲垣忠（東北学院大学文学部教育学科教授） 前訳書の紹介と本書へのコメント

聞き手：宇治橋祐之（NHK 放送文化研究所）

第 3 部 苫野一徳（熊本大学教育学部准教授） 軽井沢風越学園の紹介と本書へのコメント

聞き手：稲垣忠（東北学院大学文学部第三部学科教授）

第 4 部 池上敬一（三条ただクリニック院長・JSISH 代表理事） JSISH これからの 12 年と本書へのコメント

聞き手：岡本華枝（横浜創英大学看護学部准教授）

第 5 部 苫野一徳 池上敬一 鈴木克明

討論：学習者中心の教育をどう実現するか

コーディネータ（質問紹介）：宇治橋祐之 クロージング（総合司会：岡本華枝）